

News letter

Japanese Nursing Society of PAS Based Self-Care



PAS-SCT 看護学会第4回大会 大会長挨拶

COVID-19 パンデミックに高度実践看護師としていかに立ち向かうか

第4回大会 大会長 松枝美智子

(星槎大学大学院教育学研究科 教授)

COVID-19 パンデミックの影響は社会のあらゆる階層・分野・年齢層、個々人のライフスタイルや人生に現に影響を及ぼし、それが長期化する様相を呈している。またこの未曾有の危機は、パンデミック以前からあった社会の諸々の脆弱性とレジリエンスを浮き彫りにし、二極化、格差の拡大に拍車がかかっている。このような状況に対して、ワクチン接種さえ進めばすべてが解決するかのような幻想を持つことは、あまりに楽観主義である。

欧米では抑うつ、不安、自殺などの深刻なメンタルヘルス上の問題を持つ人々の増加が問題になっており、実は日本でも自殺者の数は増えている。また、COVID-19 に感染した患者を直接ケアする医療従事者のメンタルヘルスの不調も深刻である。私が現在、精神看護学の専門家として最も注目しているのは、医療従事者の Moral Injury (以下 MI) である。MI は古くからある概念で、元々は戦争に従事する軍人で多く認められたメンタルヘルス不調であり、PTSD と異なる概念で精神疾患ではない。MI は「個人の道徳的規範に違反する出来事を目撃したり、それに参加したりすることから生じる心理的苦痛」(Williams et al,2021) である。医療従事者の Moral Injury のシステマティック・レビューでは、「睡眠障害; 未婚; 30 歳未満; 女性の性別; 仏教/道教の信仰」のある人、医師より看護師の重症度が高く、不安、うつ病、燃え尽き症候群との有意な相関が認められることが明らかになっている (Williams et al,2021)。医療機関等で離職者が後を絶たないという声を聞くのはこれらの背景があるのではないかと推察する。

また、過去に類似の感染症 SARS で入院し回復した人の 47.8% が 3 か月後に PTSD の状態、25.6% の人が 30 か月後にも持続(Mak, et al,2010)していたことを考えると長期に亘るメンタルヘルスへの影響が危惧される。

このように医療従事者や患者とその家族、国民のメンタルヘルスの問題は深刻にも関わらず、欧米と違い、国民のメンタルヘルスの問題に対する国家としての方針は出されておらず、対応も個々の機関や自治体の能力に応じて格差がある。

このような状況下で高度実践看護師として何をなすべきなのか? まずは医療崩壊につながる状況を食い止めるために、専門性を超えてメンタルヘルスに関する知識を共有し、PAS セルフケアセラピーなどの効果のある看護介入技法を学び、介入技術を磨きながら、患者・家族や医療従事者に質の高い看護を提供する必要がある。第4回大会が、その契機となることを切に願っている。

第4回大会ホームページ▶▶<https://www.passctnursingconference.com/>



2021 年 第 1 回 PAS-SCT 看護学会主催トレーニングに参加して

黒川友美子

(京都第二赤十字病院 精神看護専門看護師)

今回の参加は、大阪大学インテシブコースセミナーに参加し宇佐美先生のご講演を拝聴したことがきっかけとなっています。ちょうどそのころ、COVID-19 に感染された入院患者さんへ関わらせていただくなかで様々な困難感を感じていました。ご講演の中で COVID-19 禍によるメンタルヘルスへの現状、看護への影響、コロナ禍継続における日々への影響について、セルフケア支援の重要性と介入技法について学ばせていただきました。今自分自身が面接技法など実践的なスキルを習得したいと感じ今回の第 1 回トレーニングに参加させていただきました。

先日のトレーニングでは、宇佐美先生によるご講義で精神状態や自我・人格機能・自己・力動的発達・セルフケアに関する総合アセスメントについて事例に沿って丁寧に学びました。また、宇佐美先生ご自身による事例のケース・フォーミュレーション等実際の事例展開を学んだうえに、小谷先生の解説が加わり、私の頭の中では 1 つも介入の糸口も思いつけないような困難事例の介入技法が、理論をもとに次々と明らかにされる様を目の当たりにしました。そして私自身が感じていた困難感は、今回の COVID-19 感染をきっかけに適応障害、抑うつ、せん妄、認知機能の低下、既往の精神疾患の悪化が生じた方々への介入において、セルフケアの低下をおこし、依存や退行がすすむ事例への介入であったことに気づかされました。講義の中の大きな病気、ストレス、傷つきが自我に与える影響が多く事例におこっていたことを実感し PAS-SCT の理論、技法が現在の介入にいかにかに必要かを強く感じました。

また、感染対策の中様々な研修が中止に追い込まれるなか、久々に声を出して事例について語り合う場に入れたことが本当にうれしかったです。オンラインであんな白熱したロールプレイができるとは、あんな活発なご指導をたくさんいただけるとは、夢にも思ってもいませんでした。是非皆様にも参加し体験していただきたいと思います。



PAS セルフケアセラピィ看護学会トレーニングに参加して

江田由美子

(熊本大学病院 精神看護専門看護師)

私は、PAS セルフケアセラピィ看護学会主催のトレーニングには、これまで複数回参加させて頂いております。毎回、事前にケースをまとめながらアセスメントの難しさを感じたり、理解の不十分さを情けなく感じたりしながら当日を迎えますが、2 日間のトレーニングを終える頃には「明日、あの患者さんと面接してみよう」とエネルギーが湧いてきます。

トレーニングの 2 日間は、参加者のケースを追体験することで、日々の患者さんとの関わりで困難さを感じながら取り組んでいるのは自分だけではないと、勝手ながら仲間意識を感じます。そして、ロールプレイや参加者との意見交換を通して新たなことに気づいたり、小谷先生や宇佐美先生のアドバイスで患者理解の視点などを学ぶことができる貴重な時間です。

私は、「自分は何をすべきか」「何を答えるべきか」と考えてしまう傾向があり、「今、ここで」感じた事を言葉にしてみる事がなかなかできずにいます。面接をしている自分の目の前にいらっしゃる患者さんとの間に今起こっていることをきちんと捉えて、自分が考える問題ではなく、患者さんのセルフケア上のニーズは何かということをしっかり考えて実践に活かしていきたいと思っています。

COVID-19の影響で今回のトレーニングもリモート開催となりました。最初はリモートによるトレーニングはどのような感じになるのだろうと不安と緊張感がありましたが、今回は2回目でもあり少し慣れてきた感覚はあります。リモートによる開催にも利点があると思いますが、やはり直接会場で先生方や参加者の皆さんの表情を見て、エネルギーを肌で感じながら、ロールプレイをするあの雰囲気を味わいたく、早くコロナが終息することを願っております。



PAS-SCT 看護学会トレーニング 精神科診断・薬物治療編 参加者の声

自身のケアを振り返り、新たな学びを得て臨床実践に繋げる機会に

山田美月

(社会医療法人北斗会 さわ病院)

精神科で勤め始め、5年目になります。自己破壊衝動のある患者様、発達の過程でトラウマを抱えた患者様と出会いました。防衛機制や内的世界を学ぶようになり、何となくアセスメントしてみるもののケアにそれをどう扱っていいのかわからず、行き詰まり、困難感を覚え、また時には実践でセルフケアが改善しともに喜んだりもしてきました。もっと効果的で、有用な介入を迅速に行うことができるようになりたい、ケアの答えや指針を見つけないと一心でいた頃、PAS セルフケアセラピーを知り、非常に難しいと感じたものの、これをぜひしっかりと身に着けたいと強く思いました。そのため、必要な知識と学びを得たく思い大学院へ進学し、現在は精神科専門看護師を目指しています。今回、精神科診断薬物治療トレーニングにおいて、事例を提示させていただき好機を得ました。まだ学びはじめたところで非常に拙いものでしたが、PAS セルフケアセラピーの技法に則って事例をアセスメントし、ケースフォーミュレーションを立て、そのご意見、ご指導を参加者の皆様、そして宇佐美先生からいただくことができました。精神科医の大磯先生から PTSD、うつ病、認知症が実際の臨床でどのように診断がなされ、鑑別を判断し、薬物療法をされているのかをご教授いただきました。自分のケアを考えると、なぜその病名を診断されたのか、その裏にどのようなアセスメントや診断基準や症状があり、何を目的に薬剤を使用するかという知識が患者様のケアにおいて非常に重要であることを再確認するとともに、自分の事例に当てはめて考えることで、診断・薬物療法から自分が気づいていなかった事例への新たな理解を深めることができました。一つ学ぶだけでも臨床に立つ自分が、違うものが見えてくるように思えて嬉しく思います。今後も、継続的にトレーニングを重ねていき実践力を磨きたいと思います。

2021年度のトレーニングは、残り2回開催予定です。また、精神科診断・薬物療法トレーニングも残り1回開催予定です。

患者・家族への看護の重要な役割・機能であるセルフケア支援に関心のある方、実践能力を高めたいと考えていらっしゃる方、一緒に学んでみませんか。初めての方、一度参加された方のご参加もお待ちしています。



学会からのご案内（学会事務局）

◆PAS - SCT 看護学会 第4回大会

大会長：松枝美智子（星槎大学大学院教育学研究科教授）

大会テーマ：高度実践看護の未来を拓く—看護介入技法の発展に向けての課題—

日時：2021年9月5日（日） 10:00～17:30

開催方法：Web開催（リアルタイムオンライン）

事前参加費：会員 6,000 円、非会員 7,000 円 当日参加費：会員 7,000 円、非会員 8,000 円

事前参加登録期間：2021年3月1日（月）～8月23日（月）

*8月24日（火）以降の登録は、当日参加登録として承ります。

*参加登録は、大会ホームページよりお申し込みください。

お問い合わせ：第4回大会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1 四天王寺大学看護学部内

E-mail：4ht_annual@passctnursingconference.com

大会ホームページ <https://www.passctnursingconference.com/>



◆2021年PAS - SCT 看護学会主催トレーニング 第3回

本学会トレーニングは、五大疾患¹⁾などの慢性疾患ならびにコロナ禍での患者と家族、スタッフの不安や抑うつに短時間で介入し、セルフケアを促進する最新セルフケアプログラムおよびケア困難患者²⁾へのPASセルフケアセラピー（PAS-SCT）の介入技法を学びます。技法は、繰り返し練習しながら修得しますので、継続してご参加いただければと思います。（五大疾患¹⁾：悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、糖尿病、精神疾患）（困難患者²⁾：行動化・反復される自傷行為・依存や訴えが多い・長期入院・入院の繰り返し・隔離拘束がとれない・衝動性が高いと認識される患者）

テーマ：ケア困難患者へのPAS-SCT展開と介入型事例報告・事例研究

日時：2021年10月30日（土）11:00～18:30、10月31日（日）10:00～16:30

会場：あべのハルカス（大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43）*感染状況によってはオンライン開催

参加費：会員 13,000 円、非会員 15,000 円（2日間の参加費です）

申し込み：学会ホームページ内参加申込フォームまたは右記QRコード▶▶



◆お問い合わせ：PAS-SCT 看護学会事務局

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

四天王寺大学看護学部内

TEL：072-959-2436 E-mail：passct_office@passct.com

事務局長 川田陽子（四天王寺大学）

事務局 石飛マリコ（日本赤十字九州国際大学）、橋野明香（広島大学）

◆発行：PAS-SCT看護学会広報委員会

委員長 相澤和美（国際医療福祉大学大学院）

委員 樋口有紀（熊本大学）

